

スポーツの肩関節障害に対する動作分析

第一岡本病院 リハビリテーション科 三浦雄一郎

スポーツ障害に対する動作分析は一般的な基本動作分析とは異なり、セラピストがそのスポーツに精通していなければ動作異常を見出すことは大変困難である。まずは比較する対象を何にするかが重要となる。方法としては①健側との比較、②健常者との比較、③スポーツ選手との比較が挙げられる。臨床で行う場合には①健側との比較は簡便の方法であり、有効であると考えられる。ただし、対象とするスポーツ動作が両手を使用する場合や体幹障害などでは比較することが難しいので条件が限られるという難点もある。②健常者との比較においても簡便な方法であるが健常者がその動作を熟練していないという難点がある。最も有効的な方法は③スポーツ選手との比較にあるが、学校やクラブ、他の選手の協力が必要であり、そのために時間、労力を要することがある。また最近では **you tube** などで一流選手の動画は拝見できる為、活用することも可能である。

スポーツにおける運動機能を我々セラピストが動作分析の対象範囲とすることで一般的な基本動作及びその応用においても視野が広がり、それまで見いだせなかった問題点も発見できる可能性がある。本気講義ではビデオで紹介しながら皆さんと考えていきたいと思えます。